

平成21年度 実施設計コース推進工法研修を受講して

都留市 産業・建設部 水資源活用課 勝俣 彰仁

小口径推進工法は、昭和50年代に入って下水道管渠の一部に用いられるようになり、適用初期は、採用される適用土質条件が限定されていたが、技術開発が進み、従来難しいとされていた滞水性、崩壊性及び砂礫地盤などにも対応できるようになった。そのため、現在では50種類以上もの工法があり、最適工法の選択が非常に難しいものとなっている。

このような状況の中、日本下水道事業団において推進工法研修が行なわれているため、当該研修に参加させていただいた。

研修内容は下記のとおりであった。

- ① 推進工法の概説について
- ② 最適工法の選定について
- ③ 設計のポイントについて
- ④ 設計積算演習について
- ⑤ 研修参加者同士によるディスカッション

担当講師は、埼玉県、さいたま市、千葉市、草加市、藤沢市の実際に設計をされている職員の方々であり、知識及び経験が豊富であり、非常に内容の濃い研修であった。

また、実際に推進工法の施工をされている(社)日本下水道管渠推進技術協会からも講師が来てくださり、施工時の留意点、現場でのチェックポイントなど、通常業務の中ではわからないようなことまで教えていただき大変貴重な研修であった。

また、研修参加者によるディスカッションでは、最適工法選定時の問題点、設計と施工の日進量の乖離など、通常の業務での課題について論議する場が設けられていた。その論議では、県職員、市町村職員、下水道公社など全国各地から21名が参加しているため、様々な意見が出され、とても有意義なものであった。

最後になりますが、講師の方々、研修の助成をいただいた山梨県建設技術センターの皆様、本当にありがとうございました。この研修の成果を今後の業務に存分に活用していくよう精一杯がんばります。